

長崎大学経済学部所蔵

武 藤 文 庫 目 録

長崎大学附属図書館経済学部分館

1 9 7 2

巻 頭 言

経済学博士武藤長蔵教授は明治14年、愛知県海部郡津島町に生れ、名古屋商業学校より東京高等商業学校、引続き同校専攻部にすゝみ、明治38年卒業せられた。直ちに上海東亜同文書院教師として赴任され、やがて同40年創設まもなく長崎高等商業学校教授に任ぜられ、爾来30年間研究生活に没頭され、交通論、商業史等を講ぜられた。昭和11年退官して同校名誉教授の称号を授けられたが、この間の大著「日英交通史の研究」によって昭和14年学位を受けられた。昭和17年偶々病を得て61才を以て永眠された。

教授の学問への情熱には驚くべきものがあり、考証家としてその態度はきわめて厳密であった。教授は長崎の地をこよなく愛し、長崎のもつ歴史的、文化的風土は教授の研究に豊かな土壌を提供するものであった。いわゆる「長崎学」の研究者としても盛名を馳せられた。教授は清廉にして純粹、格調高き人柄で、その独特の研究と相まって多くの人々から尊敬と親愛の情をもたれた。オランダ、スエーデン、ドイツから勲賞をおくられるなど多彩な活動を示す国際人でもあった。

教授は在職中孜孜として各地より内外の文献蒐集に傾倒され、その收藏するところのものは各方面にわたり、貴重な資料を多数含み、個人の蒐集されたものとしては余人の追隨を許さないものであったといえる。教授の歿後、1万冊を超える蔵書は本学同窓会がご遺族から譲り受け、あげて本学図書館に寄贈され武藤文庫と呼称されることになった。

今年経済学部は図書館の新築落成を機に武藤文庫の整備が具体化し、文部省の援助を得て武藤文庫目録を刊行することになった。目録作成にあたっては、長崎県立図書館史料課長石田保氏、市立博物館次長越中哲也氏、郷土史家中西啓氏、純心短大福島康子氏、市立博物館原田博二氏、県立美術館越中勇氏のご協力、また図書館長志津田氏治教授、図書係長中島敏幸氏をはじめ分館職員の献身的な努力に対し衷心感謝の意を表するものである。

なおこの計画にあたって多大のご尽力をいただいた教授のご令息武藤崎一郎氏並びに文部省、大学本部の関係者の方々のご援助に対し併せて深く謝意を表する次第である。

昭和47年12月

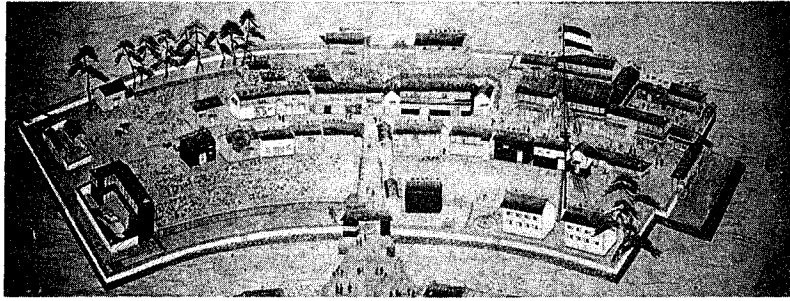
長崎大学経済部長

河 本 博 介

武藤長蔵博士略年譜

- 明治 14.6.9 愛知県海部郡津島町（現在の愛知県津島市）に武藤長八の次男として生れる。
- 30.3.31 名古屋商業学校本科卒業。
- 36.7.7 東京高等商業学校卒業。
- 38.7.7 同校専攻部貿易科卒業。
- 9.9 在清国上海東亜同文書院教師を嘱託せられる。
- 39.12.14 願により解嘱。
- 40.1.10 長崎高等商業学校教授に任ぜられる。
- 40.6.25 清・韓・両国へ差遣される。
- 42.7.7 清・韓・両国へ出張を命ぜられる。
- 44.9.12 商業学研究のため3ケ年間米・英・独国へ留学を命ぜられる。
- 大正 4.11.8 満期帰朝
- 8.11.28 勲六等に叙し瑞宝章を授けられる。
- 8.8.11 大正9年度文部省社会教育講師を嘱託せられる。
- 11.7.24 支那・香港・マニラ方面へ出張を命ぜられる。広東にて康熙53年炉造の釣鐘の銘に「銀行会館」なる名辞を発見する。
- 12.11.19 山口高等商業学校講師を嘱託せられる。
- 13.2.7 勅任官を以て待遇せられる。
- 3.31 勲五等に叙し瑞宝章を授けられる。
- 4.26 シーボルト先生渡来100年記念式典挙行にあたり、発起者として尽力する。
- 12 オランダ皇帝陛下より「オフィシエー・オランジュ・ナッソウ」(Officier in de Orde Van Oranje Nassaw) 四等勲章を贈与せられる。
- 14.5.30 長崎県社会事業協会評議員を嘱託せられる。
- 8.29 勲四等瑞宝章を授けられる。
- 15.10.7 瑞典国皇帝より贈与の甲級「シュヴァリエー・ワザ」勲章 (Riddare av Kungl. Vasaorden, första Klassen, Knight 1 class of the Royal Order of Wasa) を来朝中の同国皇太子殿下より別府において親授せられる。
- 昭和 2.10.8 北京へ出張を命ぜられる。
- 3.6.30 高等官二等に陞叙せられる。
- 5.8.12 勲三等に叙し瑞宝章を授けられる。
- 6.4.9 交通史研究のため東京府、京都府へ出張を命ぜられる。(内地研究)
- 7.8.4 社会経済史学会理事に選ばれる。
- 8 「徳川時代における経済思想と洋学」につき昭和8年度文部省精神科学研究奨励金を受ける。
- 9.10.20 実業教育50周年記念会より表彰状及び記念品を授けられる。

- 11.29 九州帝国大学法文学部講師を嘱託せられる。
- 11.10.19 願に依り本官を免ぜられる。
- 10.20 長崎高等商業学校講師を嘱託せられる。
- 11.17 従三位を叙せられる。
- 11.25 長崎高等商業学校名誉教授の名称を授けられる。
- 12.2.22 ドイツ国政府より「ドイツ赤十字勲章」2級 (II Klasse des Ehrenzeichens des Deutschen Roten Kreuzes) を贈与せられる。
- 14.1.13 「日英交通史之研究」に対し、慶応義塾大学より経済学博士の学位を受ける。
- 15.2.11 御紋章入盃を下賜される。
- 11.9 紀元二千六百年記念章を授与せられる。
- 17.6.27 長崎市東山手にて死去。

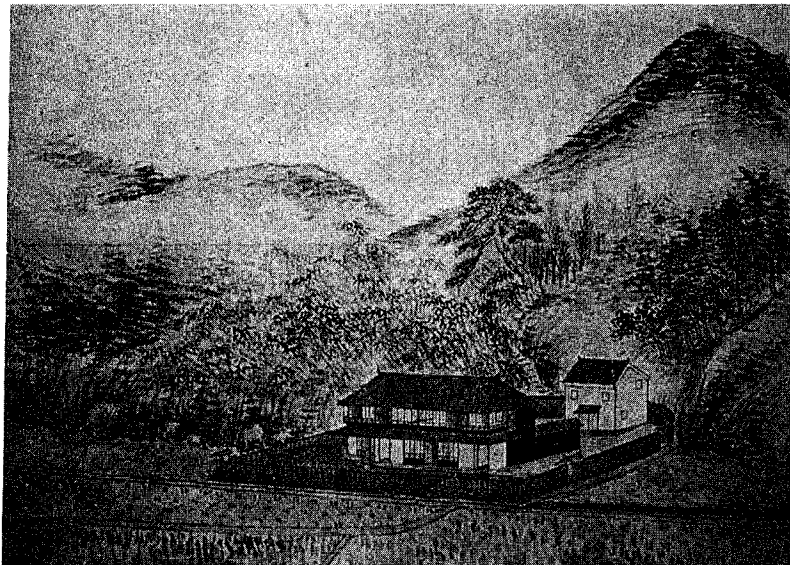


川原慶賀筆

長崎出島之図



VOCマーク入オランダ皿



成瀬石痴筆

鳴滝塾舎の図



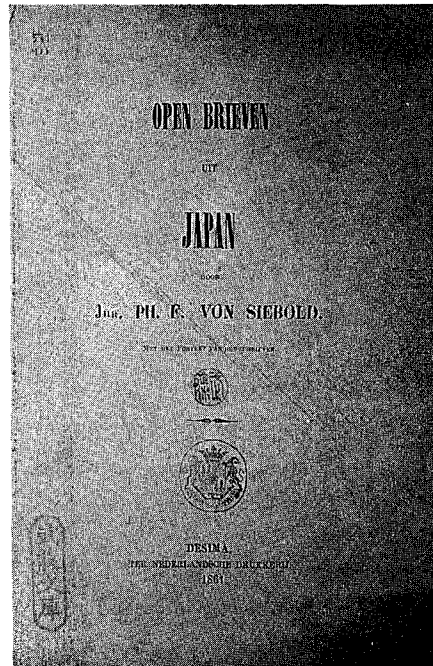
松井硯山筆

オランダ人夫妻相愛之図



ロドリゲス著

日本通信一六〇九—一六一〇



シーボルト著

日本からの公開状

凡 例

1. この目録は、和漢書と洋書に大別し、和漢書は洋装本、和装本、雑誌、資料（絵画・陶器類）に
区別記載した。
洋書については稀覯書、若しくは稀覯書と称し得べきものを抽出して「武藤文庫稀覯書目録」と
して重複記載した。
2. この目録の分類は、日本十進分類法ではなく、当分館独自の旧分類法で分類し、同一分類内は、
和漢書については書名の五十音順、洋書については編著者のアルファベット順に配列した。
3. この目録の記載法は、必ずしも日本目録規則によったものではなく、中には目録作成者独自で
記載したものもある。
目録作成者の推定で補った箇所は〔 〕でかこんだ。
4. 和漢書の記載は、書名、著編訳者、出版事項、頁数等、大きさ、注記、分類記号の順に記入した。
5. 和漢書で2冊以上の叢書等および雑誌はまとめて記入し、巻号および出版年は最初と最後をとり
「一」でむすんだ。
ただし、巻号が断続している場合は切目の巻号を明記した。
6. 索引については、洋書は著者名のアルファベット順とし、和漢書は団体名を含めた著編者の五十
音順として配列した。
7. 文字については印刷の都合上止むなく当用漢字を用いることにした。
8. 洋書の部については、故宮崎震作編・昭和27年発行の原稿をそのまま再版した。

目 次

卷 頭 言

略 年 譜

図 版

凡 例

和 漢 書 の 部

分 類 表

洋 装 本 1

和 装 本 74

古 文 書 集 101

雑 誌 103

資 料 107

索 引 113

洋 書 の 部

分 類 表

稀 覯 書 155

索 引 172

編 集 後 記

編 集 後 記

経済学部分館が、この春新築落成したのを機会に、急拠多年の懸案であった武藤文庫目録の作成が企画されるようになり、はからずも本年の7月に、文部省当局の御好意あふれる御協力をいただき、ここに目録作成のスタートを切ることになったのである。いうまでもなく、蔵書目録は、そこに収録される図書・資料などが、研究上不朽の価値を放つものであればあるほど、その作成にあたっては、細心の注意と精力とを傾注しなければならないものである。

そこで、早速ながら、この8月頃から、この方面の専門の方々と数回にわたって綿密な討議を重ね、またそれと並行して図書委員会の諸先生方の有益な御意見を拝聴しながら、目録書作りの作業を進めていったのである。何分にも、一度に来年の3月末までに、和書・洋書の両者を含めた目録を作成しなければならないという時間的な制約が課されていた上に、額装、表装などの修理、製本等も同時に着手しなければならないという、いわば重畳的な作業であったことから、最初の計画をかなり変更しなければならない事情があったことは、御諒解を頂きたいところである。

幸いに、洋書の目録については、昭和27年、当時の図書係長であった故宮崎震作氏による目録の原板があったために、それをそのまま使用させて頂くことにした。もちろん、予算と時間的な都合で、古い原板を用いたために、印刷の点で判然としない箇所もあるのではないかと心配をしている。他方、和書については、洋書と違ってカードの整理確認から、個別的に手がけたためにその作業行程の面で、色々と手違いや誤りなどがあって利用者各位に御迷惑をおかけすることになりはしないかと最も懸念しているところである。

しかし、ともかくも迂余曲折ながら、武藤文庫目録が、このような姿で発行されるに至ったことは、関係者各方面の なみなみならぬ 御尽力の結晶であり、館員一同に代って心より御礼を申し上げる次第である。いささかなりとも、皆様方のお役に立つことがあれば、私たちの喜びこれに過ぐるものはない。どうぞ今後とも、皆様方の暖かい御教示を得て、機会あるごとにこれを補い、より完璧なものに近づけていきたいものと切に念願してやまないものである。

(志津田・中島記)

武 藤 文 庫 目 録

昭 和 48 年 3 月 15 日 印 刷

昭 和 48 年 3 月 20 日 發 行

編 集 ・ 發 行 長 崎 大 学 經 济 学 部

長 崎 市 片 淵 町 3 - 1

印 刷 所 日 本 紙 工 印 刷 株 式 会 社

長 崎 市 興 善 町 2 - 6
